

市川のまち

地名の由来

「No.1」

いるのが最も古いと考えられています。室町時代から戦国時代にかけての市川には渡し場があり、宿場となっていました。

普段、なにげなく使っている町名。しかし、その由来となると、知っている人はごく限られています。このコーナーでは、現在市内にあるさまざまな地名の由来をご紹介します。



「市川」の呼び名の由来はいろいろな説があります。江戸川が坂東一の大きな川だということから「一の川」といい、それが後に「市川」となったとか、川船に荷を積んで集まった人によって開かれた市場の場所を市川と呼ぶようになったともいいます。

市川・市川南

古代にはあった地名と

考えられています。南北朝時代の記録に「市河村」とされて

最古の記録は南北朝時代に

「市川村」という村名は江戸時代から

あり、幕末は幕府と旗本大久保氏が領し、石高は九百十五石余でした。ただし、当時の村域は現在よりも広く、国府台に飛地があるほか、真間、新田の一部なども含んでいました。

明治初期に真間村が独立。明治二十二年、国府台、市川新田、真間、平田の各村と合併して「市川町」が誕生すると、もとの市川村地域は大字(おおあき)となりました。さらに、昭和二十六年、大字を町名に改称したとき、大字市川は、市川町一〜五丁目と根本町ほかに分れました。そして、昭和四十年、住居表示が実施され、根本町と市川町の区域は総武線から北側が市川一〜四丁目、南側が市川南一〜四丁目(翌年五丁目が加わる)になりました。